

明照会

大正7年9月19日創立

第178号

令和5年9月29日

社会福祉法人上田明照会
じょうびつこくど じょうじゆしゆじょう
浄仏国土 成就衆生
(法人設立理念)

ニュース

平成15年4月7日創刊

平成30年度鍛冶町児童施設の完成に引き続き、老朽化に伴う新田施設の建替工事に着手する為、令和4年9月プロジェクトチームを発足しました。令和5年度に入ってから、視察研修を重ね、定時評議員会においてプロジェクトチームから委員会として承認されました。新しい新田施設の開所は令和8年4月を目標にしています。すべての皆さんも我が事と捉えて頂き新しい新田施設を作り上げていきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。



上田明照会新田施設整備事業趣意書

浄仏国土・成就衆生（社会環境の浄化と円満な人格形成）を設立理念とする上田明照会は、大正7年から百五年にわたり福祉世界を照らして来ました。「社会の浄化はこどもから」との心眼により、日曜学校を開き、児童無料相談事業など、さらに託児所：甘露園(甘露保育園)、母子寮：見誓寮の展開に至りました。

戦後、時代と地域社会の要請に応じて福祉事業展開を図り、設立から40年余りの昭和34年、知的障がい児通園施設の宝池園（蓮の音こども園）を新田に開設し、その後成人通所の宝池慈光園（ともいき宝池慈光）、宝池和順園（ともいき宝池和順）、入所とし宝池月影寮（ともいきライフ月影）、宝池住吉寮（ともいきライフ住吉）の開設に繋がってきました。宝池園から宝池住吉寮開設には、保護者の熱い希望があったことが、「創立50年史」にうかがえます。

戦前を法人の草創期とするならば、戦後の発展期の中核となった新田地区の施設の老朽化。この施設整備は、障がい者通所事業と法人本部、相談支援のそれぞれの再生を図るものとなります。世紀にわたり仏教思想を基底に置きながら、実践を継承してきた本会は、障がい福祉に着手し、まもなく70年を迎えようとしています。

住み慣れた地域で暮らし続けるため、また地域の誰もが安心した日常生活を過ごせる社会を実現するため、地域共生社会を目指します。障がい当事者やご家族の期待に応えとともに、次世代を担う人材を育む様々な運動を始めたいと思ひます。

浄土宗を開いた法然上人がお示しになったみ教えを、手から手へ、人から人へおてつぎし、明るく・正しく・仲良い、“ともいき”社会を願って、令和8年に新田施設整備を成し遂げることを重点目標としています。

皆様のご理解とご協力をお願ひ申し上げます。

社会福祉法人 上田明照会
会長 横内 浄真
建設委員会委員長 塚田 昌志
建設委員会委員 一同

真剣な表情のBくん。
集中している様子が
わかりますね。



シリーズ化し、各事業所における意思決定支援の取り組みを紹介しています。

6回目の今回は「蓮の音こども園」を紹介します。



「やりたい」「やってみたい」を みつけるために・・・

蓮の音こども園が大切にしていること・・・それは、子ども一人ひとりの発達段階に合わせ、経験を豊かにしていくことです。

子どもたちは遊びから様々なことを学びます。「体の使い方」「指先の操作」「手と目の協応」「他者とのやりとり」「集団でのルール」数えきれないほどの学びがあります。

遊びを通し「自分でもできた」「楽しかった」「なんだか心地よかった」そんな気持ち生まれ、「また、やりたいな」「次はいつかな・・・？」といった「意思形成」が育っていきます。やってみたいからこそ追求し「意思表示」をしていく。私たち職員がそこを受け止め「意思実現」できるよう支援することが意思決定支援のプロセスであると考えています。

蓮の音こども園では、大人と一緒にたくさんの経験ができるよう、ゆっくりと、じっくりとその子の強みを生かして、子どもたちが達成感を感じられるよう、お家の方と一緒に考えサポートしています。強みのあることは大きな宝です！

ここで、こども園での実際のエピソードを
2つご紹介します。

「僕は、甘露保育園のお友達に逢いたいです」って手を伸ばしているんですよ。



自力移動の難しいAくん。Aくんの最大の武器はすべての大人をメロメロにさせる笑顔です。

そんなAくんは、昨年度から手を使っておもちゃで遊ぶ、気になるところへ手を伸ばすなどの行動が見られるようになりました。Aくんからの発信を大人がくみ取り、その度に代弁し、Aくんは手を伸ばすと

いった発信を学びました。今では自分の行きたい場所や方向へ手を伸ばし、はっきりと教えてくれます。今ある発信を見逃さず、丁寧に受け止めることで、Aくんの自己発信が繋がったエピソードでした。

- 2つ目は、遊びについてです。
- Bくんは、立位が難しく、座位で過ごすことが多いお子さんです。おもちゃを握る、引っ張るなどおもちゃによっては握り続けることができます。今は、周囲の大人とたくさんふれあうことで外界からの刺激を取り入れ、心地よさを体感することを中心に生活をしています。Bくんの興味を広げる方法をクラスで模索していたところ、絵を描く際にBくんが握りやすい道具と、見え方に着目し、Bくんの表情を見ながら画用紙のセッティングを整えました。すると、球体のペンを握り、立てかけた画用紙に色がついたことをBくんが気づくと、身を乗り出しペンを走らせていました。Bくんの満足そうな表情から、楽しい気持ちと「またやりたいな・・・」に繋がっていくことが期待できそうです。子どもたちの声や視線の先にあるものがキラキラ、ワクワクしたものなのでしょう！

- また、上田明照会には成人施設とのつながりがあります。余暇の過ごし方や好きなこと探しを、幼児期から視野に入れ、数十年後の生活が豊かになる・・・そんなお手伝いができるように考えています。



ひまわりの種を
蒔きました。
プランターに土を移し小さなひまわりの種を大切に土の中に埋めました。お世話をして⇒芽が出て⇒花が咲いて
貴重な体験です。



調理実習

ぺたんこおにぎりを作りました。自分で食べるおにぎりを混ぜて⇒海苔の上に乗せて⇒海苔で包んで⇒パクッ
あー！おいしい♡



道標（みちしるべ）

グループホーム職員 木下文夫

8月は異常気象と呼ぶにふさわしい暑い日が続き、熱帯夜の連続の日々でした。施設や事業所では熱中症予防で室温管理や水分補給に余念がなかったと思います。コロナ感染症は国の対応方法が変化し、罹患の実態が目に見えなくなっています。最近では変種株の話もあまり話題に乗らなくなりました。時折、医療の危機的な状況が報道されたりするようになりました。唐突感と「やっぱりなあ」という感触を抱くのは私だけではないでしょう。制限がない移動や商業施設の受け入れが回復した後は、オーバーツーリズムによる影響が気になります。観光地はひどいもので、富士山への軽装登山や弾丸登山が当たり前のようになり、目に余るごみの散乱状況は負の遺物です。渋谷駅周辺の立ち飲みも他人の迷惑を顧みない自己中心的な考えが基底にあるようです。どうしてこのような国になってしまったのでしょうか。

そのような社会状況の中で毎日の喧騒から一度は離れてみたいと考え、久しぶりに信州善光寺に一人旅をしました。今年の盗難事件以後気



になっていたびんずる地蔵様に触れることができましたが、その体はいつになく小さく、又寂し気にお座りになっているように感じられました。びんずる様は私たちの身体の病んでいるところをみんな引き受けてくださっており、触られてお顔はつるつるになっています。

本堂の正面から見て左サイドには比較的最近になって経蔵が設置されています。この辺りは奥にある忠霊殿への道のりと重なり、心が沈む気分になる場所です。しかし、今回はなぜか気

持ちが集中してくる感触に包まれました。上手く表現できませんが、静かに自分自身と対面する準備が整ってきているようでした。そこで、縁に腰かけてゆっくりと考えたことをメモしてその場を去りましたが、帰りにはとても爽やかな気持ちになりました。（写真の出典は善光寺ホームページです）



私は最近、社会福祉の現代的な状況や問題意識がよくわからなくなってもやもやとしています。社会福祉士会ニュースを見ると「(社会福祉士は) お互いに支え合い、人と人とのつながりが生まれる社会の構築のために働く」のが使命だそうです。「目の前の利用者一人ひとりの尊厳を護り、多様性が尊重されながら人々のつながりを実感できる社会への変革と、社会的包摂の実践が共有されることが“地域共生社会”という新たな社会像を目指すことである」(日本社会福祉士会西島会長)といわれているのですが、私には大きく深いプールだなという感触になっています。しかし、身近な場面で見えていくと新田エリアの「てとてと祭」の企画の中にもそのような精神が共有されているように思えます。自信を持って実践していきましょう。

グループホームでは身近な問題として利用者との人間関係の調整という課題があり、本人の障がい特性にふまえた人間理解と対人援助技術の学びが必要になっています。

そんな中で社会福祉の原点に帰ってみるのも一方法かなと思い、本棚にあった古典本をめぐってみました。学生時代のゼミで勉強した「ケースワークの原則」(バイスティック)という書籍です。これは利用者の尊厳を保持するために、援助者が遵守すべき原則である「バイスティックの7原則」として有名です。積読(つんどく)にならないよう章ごとに葉を挟んだりして、少しずつ読み進めています。

これから季節は秋に入ります。私たちにはいろいろな秋があると思います。自分で納得のいく秋を見つけ、今を全力で生き抜けるようお互いに頑張りましょう。



味遊カフェニュース



今回は人気のパンランキングをご紹介します！

第3位 シンプルだけどまた食べたくなる
塩パン

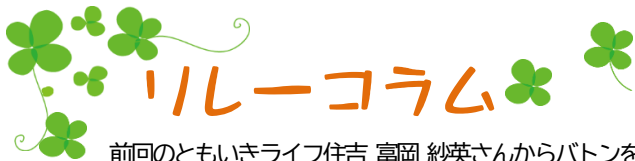
第2位 冬季限定ですが根強い人気
クリームパン

そして第1位は・・・

あま〜い練乳クリームに誘われ
つつい手が伸びてしまう悪魔のパン

ミルクフランス

ぜひ一度ご賞味ください☺



リレーコラム

前回のともいきライフ住吉 富岡 紗英さんからバトンを受けとったのは ともいき宝池慈光の **大屋 勉** さんです。

ともいきライフ住吉・富岡紗英さんよりバトンを受け取りました、ともいき宝池慈光の大屋です。

皆さんは信濃グランセローズというプロ野球チームが長野県にある事をご存知でしょうか？私は時々、応援に行っていて、今回その魅力を皆さんにもお伝えしたいと思います。

- ①試合前や試合後に、選手達ととても近くで接することが出来ます。
 - ②試合途中で選手が投げたカラーボールキャッチャーやビンゴゲームで当たると、景品がもらえるイベントがあります。
 - ③観客があまり多くないので、好きな席で観戦出来るし、移動も出来ます。
 - ④チームが強いので、応援していて楽しいです。大きな声で応援するとストレス発散にもなりますよ。(私が応援に行った試合は全勝です。今年のルートインBCリーグに優勝しましたよ。)
- 皆さんに少しは魅力が伝わったでしょうか？興味を持っていただいた方がいらっしゃったら、観戦に行っただければと思います。(真夏はすごく暑いので、春がおすすめです)



45年間ご苦労様でした

現在ともいき宝池和順に勤務されている好澤次子さんが、令和5年9月末日をもって退職される事となりました。上田明照会に45年勤務していただき、法人の発展にご努力され、献身的に利用者の皆さんと向き合ってきた姿に深く感謝申し上げます。

今まで
ありがとう
ございました！

好澤次子さんより
「笑顔も武器だ」

上田明照会に務めて45年の中で、一生の中の結婚、出産、育児、介護、すべてが自分を成長させてくれました。

「無財の七施」という話を学生の時に前会長から聞いて、こんな自分でも何か出来る、人の役に立つことが出来ると思いました。

福祉はどんどん変化していますが、人と人とのつながりが一番大事だと思います。長い間ありがとうございました。



感謝 瀧澤英知所長から感謝の言葉

永きに渡り、利用者さんと共に歩んでこられた姿は、ご家族のみならず、地域の方々、何より我々職員の記憶にしっかり刻まれています。45年間本当にご苦労様でした。今後ご指導いただければと思います。

大屋さんありがとうございました！
さて次回のリレーコラムは…
『ともいきライフ月影 竹森 勇二 さん』です。
よろしくお祈りします！

きらきら星 みつけた!



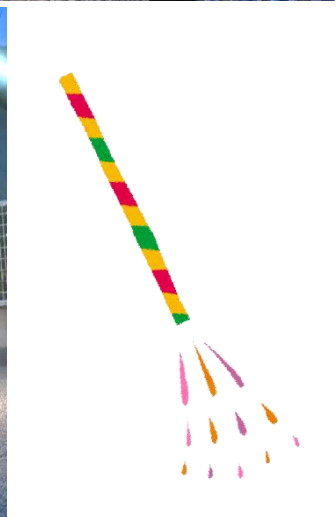
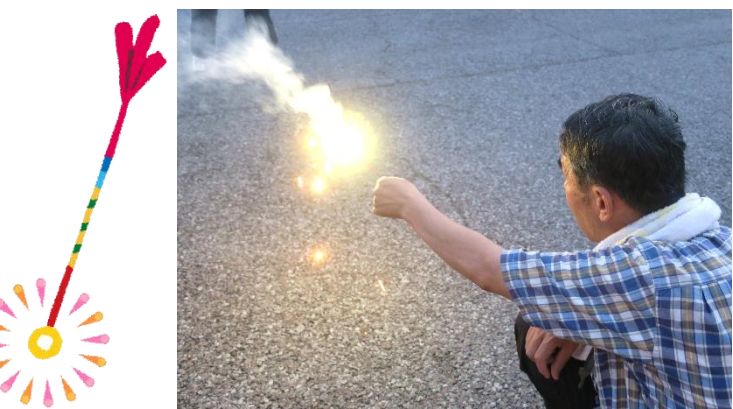
今年の夏の挨拶といえば「暑いですねえ〜」でした。「おはようございます」よりも先に出てくる程、今年の夏は酷暑でした。

そんな酷暑の日々が早く終わってほしいという願いと共に、ともいきライフ月影では8月25日に所内の駐車場で花火大会を行ないました。

「すごい!」「きれい!」と歓声を上げながら、利用者さんは自分たちで好きな手持ち花火を選び、様々な色の变化や音、煙を楽しみながら、夏恒例の行事に参加をされていました。

最後は大きな音のする打ち上げ花火に少し怖がりながらも、夜空に煌めく花火を静かに見上げていました。

花火大会が終わってから「花火やったやった」「楽しかったあ」と花火に負けないきらきらとした明るい表情をいただいたことを職員として嬉しく思いました。





編集後記

この夏は暑い日が続き、上田が日本の最高気温を記録することがあった中で、久しぶりにいろいろな行事も開催され、各地域でお祭りやイベントが賑わいを見せていました。人が集まる事のリスクを超え、人が集まる事の楽しさが増した夏だと思います。ご家庭でも久しぶりに親戚が集まり、昔話に花が咲いた方もいらっしゃると思います。私も人と人との触れ合いの楽しさや、温かみを感じながら、昔のようにコミュニケーションをとれる事のありがたみも感じました。その反面、心のどこかで、コロナ感染を心配し、人ごみの中ではマスクをし、外から帰れば手を洗い、消毒し、うがいをする自分がいました。人は苦難を体験するといつの間にか学習し、身を守るすべを獲得しています。明照会でもイベントが少しずつ復活してくると思いますが、コロナの経験を活かし、職員の皆さんがいろいろなリスクを想定、対策しながら、イベントを盛り上げ、活気のある職場を取り戻してくれることを願っております。(今井)



今すぐ
ホームページを
チェック!



<https://ueda-meishoukai.or.jp/>